

調査部報告書情報シート

記入年月日：2009年6月24日

情報No.	S-09-2	情報区分	プラ処理協調査報告
-------	--------	------	-----------

題名	平成20年度 産業系廃プラスチックの排出、処理処分に関する調査報告書 (第3回産業系廃プラの大規模実態調査)				
報告年月	2009年3月	ページ数	166	著者・出版元	プラ処理協

【キーワード】

処理方式		要素技術	
樹脂類別	有り	化学物質名	
形状別	有り	用途別	産廃処理
法規制	廃棄物処理法ほか	国別	日本

調査研究内容	<p>1. 産廃プラの大規模調査として5年毎の調査設計で平成11年から実施。第3回目の調査として1年前倒して今回平成20年度に実施したもの。これらの調査結果はフロー図の係数に反映される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○第1回 平成11年度実施（14業種対象） ○第2回 平成16年度実施（6業種対象） ○第3回 平成20年度実施（6業種対象） <p>2. 調査対象業種</p> <p>①化学工業、②プラスチック製品製造業、③ゴム製品製造業、④電気機械器具製造業、⑤輸送用機械器具製造業、⑥パルプ・紙・紙加工製品製造業の6業種。</p> <p>3. アンケート回収率</p> <p>アンケートは1,140事業所に送り、311事業所から回収（回収率：27.3%）</p> <p>4. 調査項目</p> <p>発生量、再資源化量（手法別）、処分量（売却、自己処理、委託処理、焼却、埋立）、形状別・樹脂別排出状況、売却単価、委託単価、発生源、分別状況、汚れ状況、中間処理の状況など広範囲にわたっている。</p>
調査研究結果	<p>1. 業種④⑥は、発生量が増えたにもかかわらずむしろ排出量が大幅に減少。業種①③⑤は発生量が減ったが排出量も大幅に減少。業種②は発生量も排出量も増えた。</p> <p>2. 再資源化率は、業種②で71から84%に大きく向上。他の業種はほぼ横ばい。6業種全体では76から80%に向上。</p> <p>3. 焼却率は全ての業種で減少しており、特にパルプ・紙・紙加工製品製造業で14%からほぼゼロと大きく減少。6業種全体でも7%から2%と大きく低下。</p> <p>4. 埋立率は化学工業がほぼ横ばいだったが、残りの業種では全て減少。全体でも8%から4%と半減。</p> <p>再資源化率は、第1回調査から第2回調査のような劇的な向上は見られなかったが、各業種とも着実に上昇しており、ゼロエミッションへの地道な取組みが表れたものと思われる。一方、動的にみるとほぼ一定の水準に落ち着きつつあり、次回調査は5年後でも大きな問題は無いと思われる。</p>
備考	平成21年6月24日、一水会にて記者発表